

「ほめ」に対する応答の日中大学生比較

西 香 織

1. はじめに

「謙遜」は、中国語社会や日本語社会において対人関係を円滑に保つために多用されてきた言語行動の一つである。たとえば、人からほめられた場合には、中国語であれば“哪里，哪里（いえいえ）”、“还差得远（まだまだです）”、“过奖，过奖（ほめすぎです）”、“不敢当（恐縮です）”等、日本語であれば、「いえ」、「とんでもない」、「まだまだです」等と言って相手の言葉を否定し、謙虚な態度を示すことが丁寧な応答とされてきた。

例1）A：你的英语说得真好。（英語、本当にお上手ですね。）

B：哪里，哪里。还差得远呢。（いえいえ、まだまだです。）

陈（1991）は以下のように述べている。

别人表扬、赞赏你，说你的工作或人品是如何如何的好，对别人这种好意一般不能表示感谢。人们尽管心里很乐意听这些好话，外表上也得装出不领情的样子。我们民族重社会，不突出个人的成就和荣誉，在受到表扬或赞赏时，如果说一声“谢谢”，那就默认自己很了不起了，会给人一种不谦虚的感觉。

（他人から褒められたり称賛されたりする、たとえば、仕事や人柄について、ここがいいあそこがいいと言われても、他人のこのような好意に対して、普通、「感謝」を示してはいけない。どんなに心では喜んで、うわべ

は受け入れられないという態度を示さなければならない。我が民族は社会を重んじ、個人の業績や栄誉を際立たせることをしない。褒められたり賞賛された時にもし「ありがとう」と言えば、自分がすごいということを暗に認めたことになり、相手に尊大な印象を与えかねない。）

邓・刘（1989）は、他人からほめられた際の、アメリカ人と中国人の反応の差について次のように述べている。

美国人受到别人赞扬时，一般说“谢谢”表示接受，说明自己认为对方的赞扬是诚心诚意的，所赞扬的事是值得赞扬的，而中国人则通常要表示受之有愧，做得很不够；或者说自己的成就不过是由于侥幸，或者说客观条件造成的，等等。（アメリカ人は他人からほめられたとき、「ありがとう」と言って相手のほめを受け入れることが一般的であり、相手の賞賛は誠心誠意のものであり、ほめられた事柄は賞賛に値するものだと思っていることを示す。一方、中国人は通常、恐縮したり、まだまだだという態度を示したり、或いは自分が成功したのはたまたま運がよかっただけだとか、周囲の状況によるものだと言ったりする。）

鲁（2000）においても欧米人と中国人との「ほめ」に対する応答の違いが指摘されている。

井出（2006）は、「こういう場ではこのようにするものだ」という社会的に共通に認識されているものに従って使わねばならないものを「わきまえ」の言語使用と呼んでいるが、日本語社会や中国語社会においては、ほめられた事柄に対する話し手自身の評価とは別に、「わきまえ」として、このような場面ではこれらの謙遜表現を用いることが期待され、求められてさえいる。

しかし、近年、これまで謙遜表現を使用することが求められていた場面に

においても、“谢谢”等、相手の称赞（ほめ）を受け入れる言語行動が、特に中国の若い世代において多く見られるようになった。陈（1991）は、“在接受别人的祝贺和对自己服饰装束的恭维时，年轻人更喜欢用‘谢谢’回报对方的好意（他人からお祝いの言葉をももらったり、自分の服装をほめられたりした時、若者は「ありがとう」と言って相手の好意に応えることをより好む）”と指摘しており、中国語テキスト《新实用汉语课本2》（刘珣主编、北京语言大学出版社）にも同様の指摘がある。ただし、中国語のテキストには、“哪里（哪里）”など、現在では古い表現になりつつあり¹、特に若い世代ではほとんど使用されていない謙遜表現も依然として見られる。

言葉は、社会の変化や他文化との接触にともなって絶えず変化していくものであり、中国の特に若い世代で見られるこのような変化は、日本においても見られる²。そこで、本稿では、日中両国の大学生を対象に「ほめ」に対する応答についてアンケート調査を実施し、その結果を元に、日中大学生の「ほめ」に対する応答ストラテジーやパターンの比較を行いたい。

2. 応答語の分類

「ほめ」に対する応答語については、Pomerantz（1978）、Herbert（1990）、Chen（1993）、Holmes（1995）、寺尾（1996）、大野（2005）、史（2008）等、いくつかの分類法が見られる。史（2008）は、三つの中国語コミュニティ（キャンパスコミュニティ、農村コミュニティ、労働者コミュニティ）において「ほめ」の言葉とその応答についてアンケート調査を実施し、Holmes（1995）の分類法を中国語の実際の状況に照らして改め、以下のような分類をしている³。

¹ 《Integrated Chinese 中文听说读写（2nd Edition）》（Yuehua Liu & Tao-chung Yao et al, Cheng & Tsui Company, Inc.）参照。

² たとえば、「どういたしまして」など。西（2006）参照。

³ 史（2008）は、キャンパスコミュニティにおいて（特に女性）、直接及び間接的に「ほめ」を受け入れる割合が他のコミュニティよりも高いことを指摘している。

A: Direct Acceptance

- 1) Appreciation token 2) Confirmation + appreciation token
- 3) Upgrading utterance 4) Pleasure 5) Combination
- 6) Smile

B: Indirect Acceptance

- 1) Downgrading utterance 2) Return compliment
- 3) Informative comment 4) Confirmation 5) Combination

C: Non-Acceptance

- 1) Denial 2) Divergence 3) Idiom

D: No Response

しかしながら、この分類にも依然として、いくつかの問題点がある。実際の言語コミュニケーションにおいては、より多くの表現や組み合わせが見られ、きわめて複雑な様相を呈しており、上記の分類法のようにクリアカットに分類することは難しい。たとえば、実際のコミュニケーションにおいて、上記分類法には見られない「感謝＋否定」の組み合わせが見られることもよくある。

例 2) 谢谢老师夸奖。我还有很多不足呢。会继续努力。

(先生、褒めて下さってありがとうございます。でもまだまだです。これからもっと頑張ります。)(外国語の上達)

上記のような例を「Direct Acceptance (直接的受け入れ)」とするのが妥当ではないことは一目瞭然である。

また、「Return compliment (ほめ返し)」というストラテジーもよく見られるが、上記の分類では、「Indirect Acceptance (間接的受け入れ)」に分類されている。しかし、実際には、「Non-Acceptance (打ち消し)」においても

見られ、「Direct Acceptance（直接的受け入れ）」に分類されている語との組み合わせも多い。

例3) 哪有的事, 您才漂亮呢。

(そんなわけありません。先生こそ美人です。)(容姿)

例4) 真的吗? 谢谢。你真有眼光。

(本当ですか? ありがとうございます。さすがお目が高い!)

(服装)

さらに、中国語の“是吗? (そうですか?)”と日本語の「そうですか?」等、「確認」、場合によっては「疑い」を表す語は、上記では「Indirect Acceptance（間接的受け入れ）」に分類されているが、実際にはこれらの語には多くの意味が含まれており、特に単独で発せられる場合には判断が難しく、真意はともかく、表面的には態度を保留する語であると考えられる。

このように「ほめ」に対する応答のストラテジーについては、研究者によってさまざまな分類法と呼び方があり、統一されていないのが現状である。本稿では、実際に調査を通して見られた応答から、「A: 受け入れ型応答」「B: 混合型応答」「C: 態度保留型応答⁴」「D: 打ち消し型応答」「E: 無言(非言語型応答)」の大きく5種類に分類した。

A: 受け入れ型応答

例5) 谢谢。妈妈给我挑的呢, 我也觉得很合适。

(ありがとうございます。母が選んでくれたんです。私も似合っていると思います。)(服装)

例6) 谢谢老师。可能遗传了妈妈的因素了吧。觉得很幸运。

(先生ありがとうございます。母からの遺伝でしょうね。ラッキーだと思います。)(容姿)

⁴ 概念としては、他の文献で「回避型」と呼ばれているものに近い。

例 7) 本当ですか？すごく嬉しいです。ありがとうございます。

(外国語の上達)

B : 混合型応答

「混合型応答」は、「受け入れ型応答」(主に「感謝」と「打ち消し型応答」が混じっているものを指す。

例 8) 谢谢老师。现在帅没用，到老了和您一样精神才行啊。

(先生ありがとうございます。でも今かっこいいだけでは何の役にも立ちません。年をとってからも先生のように元気であることのほうが大事です。)

(容姿)

例 9) 谢谢您。胡乱穿而已。

(ありがとうございます。でも適当に着ただけなんですけど。)

(服装)

例 10) ありがとうございます。でも、まだまだこれからだと思います。

(外国語の上達)

C : 態度保留型応答

ほめられた事柄に対して、自分の態度を明確には表明せず、確認したり、はぐらかしたり、別の話題に切り替えたりするものを指す。

例 11) 是吗？昨天刚买的。

(そうですか？昨日買ったばかりなんです。)(服装)

例 12) 恥ずかしいです。(服装)

例 13) そうですかね？(容姿)

D : 打ち消し型応答

例 14) 没有啊，您过奖了。(そんなことないです。褒めすぎです。)

(外国語の上達)

例 15) いえいえ、先生こそ美人ですよ。(容姿)

例 16) いやいやいや、とんでもないです。(服装)

E：無言（非言語型応答）

言語行動自体は見られないが、「微笑み」「手を振る」「首を振る」「うつむく」「髪をいじる」「顔を手で覆う」等、非言語行動による応答が見られる。これらは「無反応」とは分けて考えるべき要素である。「手を振る」「首を振る」等の非言語行動は「打ち消し型」と解釈しうるが、その他の非言語行動は多様な解釈が可能である。

3. 調査の内容

中国人大学生と日本人大学生にそれぞれ、自由回答によるアンケート調査を実施した。調査用紙は、回収率を上げるため、筆者が授業の前または後に受講者（被調査者）に配布し、その場で記入してもらい回収した。詳細は表1の通りである。

[表1]

被調査者	中国人大学生	日本人大学生
所属	中国 大連外国語学院 日本語学院 3年生	日本 北九州市立大学 外国語学部 1、2年生
人数	95名	82名
性別内訳	男33名、女62名	男20名、女62名
年齢	18～23歳	18～22歳
調査日時	2009年9月	2009年2月

本調査は記名方式で実施した。調査用紙には、年齢等のほか、出生地、民族（中国人大学生の場合のみ）、家庭で最もよく用いる言語（方言）、日常最もよく用いる言語（方言）等、被調査者に関わる基本情報も記入してもらった。日本人大学生には日本語で、中国人大学生には中国語でそれぞれ質問し

た。

調査用紙には以下のような 12 の「ほめ」の場面設定があり、それぞれ、対話形式になっており、相手の発した「ほめ」の言葉に対してどのように応答するかについて空白部分に自由に記入してもらった。応答時に何らかの手振りや身振り、表情等を伴うと思う場合には、それらについても記入を求めた。

[表 2]

場面		ほめた人	ほめられた内容	自分の評価
1	7	①A 先生 (女、60 歳) *とても尊敬 している先生	外国語の上達	自分でもそう思う
2	8			自分ではそう思わない
3	9		服装	自分でもそう思う
4	10			自分ではそう思わない
5	11	②親友 B *中学生の頃 からの大親友	容姿	自分でもそう思う
6	12			自分ではそう思わない

ほめられた内容について、自分ではそう思わない場合の「打ち消し型応答」は、単なる否定であって、「謙遜」とは言えない。また、親しい友人や家族間では「謙遜」はさほど見られないと予想されることから⁵、被調査者の応答に「謙遜」の言語行動が見られるかどうかを調べるため、ここでは、設定された場面のうち、「ほめた人」が① A 先生の場合で、ほめられた内容と自分自身の評価が一致する場合の結果（場面 1、3、5）を中心に見てゆくことにする。

⁵ 大野（2006）参照。

4. ほめに対する応答に見られた要素

本節では、まず、「ほめ」の応答時に見られた要素（ストラテジー）について分析する。

4.1 中国語の応答要素（中国人大学生の場合）

以下は、自分の尊敬する先生にほめられた各場面での中国人大学生の回答を分析した結果である。

4.1.1 場面1 日本語の上達をほめられた場合（中国語）

表3は、先生から、“××同学、你最近日语很有进步。（××さん、最近、日本語が上達しましたね）”とほめられた場面（場面1）で見られた応答要素の結果である。

〔表3〕

感謝	68	38.0%	「うれしい」	2	1.2%
抱負	31	17.3%	依頼	2	1.2%
「足りない」	19	10.6%	「ほめすぎ」	2	1.2%
「～のおかげ」	18	10.1%	同意	1	0.6%
確認	14	7.8%	否定	1	0.6%
理由	10	5.6%	計 179 例(13種類)		
「少しだけ」	6	3.4%	有効回答数 95		
「ふつう」	5	2.8%	一人当たり平均 1.88 種類		

先生に日本語の上達をほめられた場面1においては、計13種類179例の応答要素が見られ、一人当たり平均1.88種類の応答要素を用いていた。中でも、“谢谢（ありがとう）”等、「感謝」が最も多く見られた。その他、この場面においては、“我会继续努力的（引き続き頑張ります）”等、今後の抱負を述べる割合もやや高かった。一方、「谦逊」を表しうる要素（“不够（足りない）”、

“一点点（少しだけ）”、“一般（ふつう）”、“过奖（ほめすぎ）”、否定表現は計 33 例であり、全体の 18.4 %にとどまった。

4.1.2 場面 3 服装をほめられた場合（中国語）

次に、先生から、“××同学，你今天穿的衣服很好看，很适合你！（××さん、今日着ている服ステキね、よく似合っていますよ）”と、自分の身につけている服装をほめられた場面（場面 3）で見られた応答要素の結果について見る。

〔表 4〕

感謝	77	52.4%	理由	1	0.7%
確認	23	15.6%	「うれしい」	1	0.7%
ほめ返し	14	9.5%	真に受けない	1	0.7%
「好き」	10	6.8%	弁解	1	0.7%
「ふつう」	8	5.4%	不同意	1	0.7%
同意	5	3.4%	計 147 例（13 種類） 有効回答数 95 一人当たり平均 1.55 種類		
説明	3	2.0%			
否定	2	1.4%			

先生に服装をほめられた場面 3 においては、計 13 種類 147 例の応答が見られ、一人当たり平均 1.55 種類の応答要素を用いていた。“谢谢”等、感謝表現の割合が半数以上を占め、次いで、“是吗？（そうですか？）”や“真的吗？（本当ですか）”等、確認の言語行動が多く見られた（15.6 %）。全体的には肯定的な要素が多かった。一方、「谦逊」を表しうる要素（“一般（ふつう）”、否定表現、弁解表現、不同意表現）は計 12 例であり、全体のわずか 8.2 %にとどまった。

4.1.3 場面5 容姿をほめられた場合（中国語）

次に、先生から、“××同学，你长得真 {漂亮／帅}。（××さん、本当に {きれい／ハンサム} ね）”と容姿をほめられた場面（場面3）で見られた応答要素の結果を見る。

[表5]

感謝	52	42.6%	「ラッキー」	2	1.6%
否定	18	14.8%	「うれしい」	2	1.6%
ほめ返し	11	9.0%	「はずかしい」	2	1.6%
「ふつう」	7	5.7%	理由	1	0.8%
確認	6	4.9%	その他	1	0.8%
「足りない」	4	3.3%	計 122 例 (16 種類) 有効回答数 94 一人当たり平均 1.29 種類		
無言	4	3.3%			
同意	3	2.5%			
「ほめすぎ」	3	2.5%			
「重要でない」	3	2.5%			
真に受けない	3	2.5%			

先生に容姿をほめられた場面5においては、計 16 種類 122 例の応答が見られ、一人当たり平均 1.29 種類の応答要素を用いていた。3 場面の中では応答要素の種類は最も多いが、一人が発する応答要素数の平均は最も低かった。場面5においても、やはり「感謝」の割合が最も高かったが、他の場面に比べ、「没有（いいえ）」「哪有（どこが？）」等、（反語を含む）「否定」の割合も高かった。これら「謙遜」を表しうる要素は計 32 例あり、全体の 26.2 % を占めた。

以上、3 場面の結果より、中国人大学生は「ほめ」の場面で「感謝」の応答ストラテジーを最も一般的に使用することが明らかになった。場面5にお

いては否定的言語行動の割合が他の場面に比べ高くなっているものの、全体的に見ると、相手の「ほめ」を受け入れる表現を用いる傾向が強く、特に服装についてほめられた場合には、「謙遜」の言語行動が極めて低くなることが分かった。

4.2 日本語の応答要素（日本人大学生の場合）

以下は、自分の尊敬する先生にほめられた各場面における日本人大学生の回答を分析した結果である。

4.2.1 場面 1 中国語の上達をほめられた場合（日本語）

まず、自分の先生から、「××さんの中国語、最近、とても上達しましたね。」とほめられた場面（場面 1）で見られた応答要素の結果を見る。

[表 6]

感謝	62	44.6%	同意	1	0.7%
確認	37	26.6%	「少しだけ」	1	0.7%
「うれしい」	12	8.6%	「気づかない」	1	0.7%
「足りない」	9	6.5%	不同意	1	0.7%
「～のおかげ」	6	4.3%	計 139 例 (12 種類) 有効回答数 81 一人当たり平均 1.72 種類		
理由	5	3.6%			
抱負	2	1.4%			
否定	2	1.4%			

先生に自分の中国語の上達をほめられた場面 1 においては、計 12 種類 139 例の応答要素が見られ、一人当たり平均 1.72 種類の応答要素を用いていた。

「感謝」による応答要素が最も多く、全体の 44.6 %を占め、次いで、「そうですか？」等、「確認」が多かった (26.6 %)。また、「そう言ってもらえると嬉

「ほめ」に対する応答の日中大学生比較

しいです！やったー！！」等と言って素直に喜ぶ割合も他の場面に比べやや割合が高かった（8.6％）。一方、「まだまだです」「いえいえ」など「謙遜」を表しうる要素は計13例で、全体の9.4％を占めるのみであった。

4.2.2 場面3 服装をほめられた場合（日本語）

次に、先生から「××さんの今日の服、とってもステキね。似合っていますよ。」とほめられた場合（場面3）に見られた応答要素の結果を表7に示す。

〔表7〕

感謝	61	48.4%	同意	1	0.8%
「好き」	19	15.1%	理由	1	0.8%
確認	18	14.3%	抱負	1	0.8%
「うれしい」	7	5.6%	真に受けない	1	0.8%
ほめ返し	6	4.8%	弁解	1	0.8%
説明	5	4.0%	不同意	1	0.8%
否定	4	3.2%	計 126 例（13種類）		

有効回答数 81

一人当たり平均 1.56 種類

先生に自分の服装をほめられた場面3においては、計13種類126例の応答要素が見られ、一人当たり平均1.56種類の応答要素を用いていた。場面3においても、「感謝」が全体の48.4％と半数近くを占め、「謙遜」を表しうる応答要素は6例で全体のわずか4.8％であった。

4.2.3 場面5 容姿をほめられた場合（日本語）

場面5は先生から自分の容姿についてほめられた場面である。

[表 8]

否定	30	31.6%	同意	1	1.1%
感謝	25	26.3%	「ラッキー」	1	1.1%
真に受けない	8	8.4%	抱負	1	1.1%
ほめ返し	7	7.4%	「言われたことがない」	1	1.1%
「～のおかげ」	4	4.2%	弁解	1	1.1%
確認	4	4.2%	不同意	1	1.1%
「よく言われる」	3	3.2%	計 95 例 (16 種類) 有効回答数 78 一人当たり平均 1.22 種類		
「ほめすぎ」	3	3.2%			
「恥ずかしい」	3	3.2%			
理由	2	2.1%			

先生に自分の容姿をほめられた場面 5 においては、計 16 種類 95 例の応答要素が見られ、一人当たり平均 1.22 種類の応答要素を用いていた。場面 5 のみ、他の場面と異なる結果が見られた。日本語の他の場面や中国語の全ての場面において、最も多く見られた応答要素は「感謝」であったが、本場面においては「否定」が最も多く、全体の 31.6 % を占め、「感謝」がそれに続いた (26.3 %)。「またまた一、口がうまい。」「ほめても何も出ませんよ」等と言って、相手の「ほめ」を「真に受けない」例も他の場面に比べやや多くみられた (8.4 %)。この場面に特徴的なのは、「よく言われます」または「あんまり言われませんか」等、容姿を他人から評価されるべきものと捉えているかのような発言が見られたことである。「謙遜」を表す応答要素は 36 例で全体の 37.9 % を占め、全ての場面の中で最も高い割合となった。

4.3 応答要素（ストラテジー）の比較

以上の調査結果を比較すると明らかなように、中国人大学生と日本人大学生の応答要素（ストラテジー）の分布は驚くほど似通っている。

[表 9]

	中国人大学生	日本人大学生
場面 1 (外国語の上達)	13 種類 179 例 一人当たり平均 1.88 種類	12 種類 139 例 一人当たり平均 1.72 種類
場面 3 (服装)	13 種類 147 例 一人当たり平均 1.55 種類	13 種類 126 例 一人当たり平均 1.56 種類
場面 5 (容姿)	16 種類 122 例 一人当たり平均 1.29 種類	16 種類 95 例 一人当たり平均 1.22 種類

特にいずれも場面 5 において、応答要素の種類が最も多いにもかかわらず、1 人当たりの応答要素の平均使用数は 3 場面において最も低くなっていること等は注目に値する。

また、それぞれの場面で見られた「謙遜」の割合は以下のとおりである⁶。

[表 10]

	中国人大学生	日本人大学生
場面 1 (外国語の上達)	33 例 (18.4%)	13 例 (9.4%)
場面 3 (服装)	12 例 (8.2%)	5 例 (4.0%)
場面 5 (容姿)	32 例 (26.2%)	34 例 (35.8%)

⁶ ただし、同一の被調査者が数種類の「謙遜」を表すストラテジーを使用している場合もそれぞれ別々にカウントしている。

中国人大学生、日本人大学生ともに、容姿をほめられた場合（場面5）において「謙遜」を表しうる言語要素の割合が最も高くなっており、服装をほめられた場合（場面3）において、「謙遜」を表しうる言語要素の割合が最も低くなっていた。

5. 応答パターンの分析

前節では、「ほめ」に対する応答の言語行動に表れた言語要素（ストラテジー）について考察したが、本節では、第2節で挙げた分類に基づき、ある一人が発する応答のパターンについて見ることにする。

5.1 中国語の応答パターン（中国人大学生の場合）

5.1.1 場面1 日本語の上達をほめられた場合（中国語）

[表 11]

A 受け入れ型応答	67	70.5%
B 混合型応答	17	17.9%
C 態度保留型応答	3	3.2%
D 打ち消し型応答	8	8.4%
E 無言	0	0.0%

計 95 例

場面1では、「受け入れ型応答」が最も多く見られ、全体の70.5%を占めた。

例 17) 在老师的教导下，每天都在认真学习，我以后还会继续努力。

（先生のご指導のもとで毎日一生懸命勉強してきたので。これからも引き続き頑張ります。）

次いで、受け入れ型の応答要素と打ち消し型の応答要素の混じった「混合型応答」が多かった（17.9%）。

例 18) 只是稍微有点进步。还有很长的路要走，谢谢老师平时的辅导、帮助。

(ほんの少し上達しただけで、まだまだ先は長いです。先生いつもご指導いただきありがとうございます。)

一方、「謙遜」を含む「打ち消し型応答」は 8.4 %であった。

5.1.2 場面 3 服装をほめられた場合（中国語）

[表 12]

A 受け入れ型応答	89	93.7%
B 混合型応答	1	1.1%
C 態度保留型応答	1	1.1%
D 打ち消し型応答	4	4.2%
E 無言	0	0.0%

計 95 例

場面 3 においては、「受け入れ型応答」が圧倒的に多く見られ、全体の 93.7 % を占めた。

例 19) 谢谢。我也很喜欢。

(ありがとうございます。私も気に入ってるんです。)

一方、「謙遜」を含む「打ち消し型応答」の割合は、4.2 %と、場面 1 同様に低く、「混合型応答」も 1 例 (1.1 %) しか見られなかった。

5.1.3 場面 5 容姿をほめられた場合（中国語）

[表 13]

A 受け入れ型応答	60	63.8%
B 混合型応答	4	4.3%
C 態度保留型応答	4	4.3%
D 打ち消し型応答	22	23.4%
E 無言	4	4.3%

計 94 例

場面5においても、「受け入れ型応答」の割合が最も高いものの（63.8%）、他の2場面に比べると、その割合は低くなっている。一方、「謙遜」を含む「打ち消し型応答」が23.4%と、他の場面に比べ、割合が高くなっていることが注目される。

例20) 哪有哪有，老师您过奖了。（どこがですか。先生ほめすぎです。）

これらの結果から、中国人大学生は、「感謝」を含めた相手の言葉を受け入れる応答を好み、「謙遜」の言語行動をとることは比較的少ないことが明らかになった。これらは、ほめられた内容について自分自身もそう思っている場合のデータであり、中国の若い世代では、自分自身の評価、価値観により忠実であると考えられる。本稿には結果を示していないが、ほめられた内容について自分自身がそう思わない場面2、4、6においては、「打ち消し型応答」の割合がいずれの場面においても最も高くなっていたことが傍証となろう。

5.2 日本語の応答パターン（日本人大学生の場合）

5.2.1 場面1 中国語の上達をほめられた場合（日本語）

[表 14]

A 受け入れ型応答	68	84.0%
B 混合型応答	8	9.9%
C 態度保留型応答	2	2.5%
D 打ち消し型応答	3	3.7%
E 無言	0	0.0%

計 81 例

場面1では、「受け入れ型応答」の割合が84.0%と最も高かった。

例21) ありがとうございます。自分でも最近頑張っているので、嬉しいです。

例 22) 先生のおかげです。ありがとうございます。

一方、「謙遜」を含む「打ち消し型応答」の割合は 3.7 % と、極めて低かった。

5.2.2 場面 3 服装をほめられた場合（日本語）

[表 15]

A 受け入れ型応答	71	87.7 %
B 混合型応答	1	1.2%
C 態度保留型応答	5	6.2%
D 打ち消し型応答	4	4.9%
E 無言	0	0.0%

計 81 例

場面 3 においても「受け入れ型応答」の割合が圧倒的に高く、87.7 % を占めていた。

例 23) ありがとうございます。私、この服、気に入っているんです。

本場面においては「混合型応答」はわずか 1 例（1.2 %）しか見られず、「謙遜」を含む「打ち消し型応答」の割合も 4.9 % にとどまった。

5.2.3 場面 5 容姿をほめられた場合（日本語）

[表 16]

A 受け入れ型応答	31	39.7%
B 混合型応答	5	6.4%
C 態度保留型応答	5	6.4%
D 打ち消し型応答	37	47.4%
E 無言	0	0.0%

計 78 例

場面 5 においては、他の場面と異なり、「打ち消し型応答」が最も高い割合となっている（47.4 %）。

例 24) いえ、そんなことはありません。

例 25) いえいえ、先生こそ美人ですよ。(＝例 15)

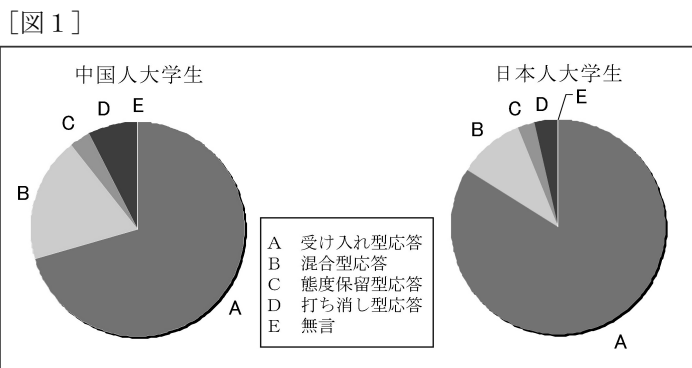
「受け入れ型応答」も 39.7 %と比較的高い割合を占めているが、他の場面では、中国語の場合も含め、「受け入れ型応答」が非常に高い割合を占めていたことから比べると、大幅に割合が下がっていることが分かる。

例 26) ありがとうございます。

これらの結果から、日本人大学生も、中国人大学生と同様、「受け入れ型応答」を好んで使用することが明らかになった。ただし、容姿をほめられた場合には、「打ち消し型応答」の割合が高くなっており、「謙遜」の言語行動をとる傾向が強くなることも分かった。

6. まとめ—日中大学生の応答パターン

日中大学生の選択した応答パターンには、かなり高い相似性がみられた。ここではグラフを用いて、それぞれの場面ごとに両者を比較することにする。まず、外国語の上達をほめられた場合（場面 1）の応答パターンを図 1 に示す。

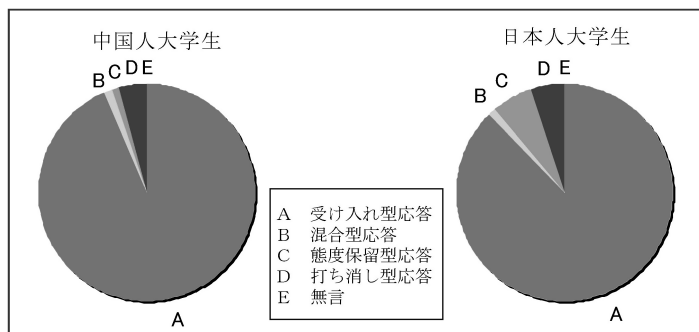


「ほめ」に対する応答の日中大学生比較

外国語という自分の能力をほめられた場面においては、日本人大学生のほうが、「受け入れ型応答」を好んで使用していることが分かる。

次に、服装をほめられた場合（場面3）の応答パターンを図2に示す。

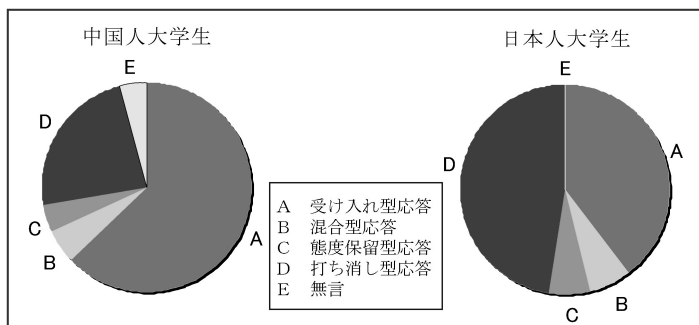
〔図2〕



場面3においては、日中の大学生共に非常に高い割合で、「受け入れ型応答」を選択していた。自分の能力や生まれつき備わったものと関わらない、自分の所有物などをほめられた場合には、日本語も中国語も、率直に受け入れる傾向が強いことが明らかになった。

最後に、ほぼ生まれつき備わったものである容姿をほめられた場合（場面5）について見る。

〔図3〕



場面5においては、日本人大学生の「打ち消し型応答」の割合が大幅に増加しており、容姿をほめられた際には、日本人大学生は「謙遜」の言語行動を選択する傾向が強いことが伺える。中国人大学生においても、他の2場面に比べると、「打ち消し型応答」の割合がやや高くなっているが、「受け入れ型応答」の割合がそれをはるかに上回っており、総合的に見れば、中国人大学生のほうが、日本人大学生よりも「受け入れ型応答」を積極的に選択していることが分かる。

以上見たように、「受け入れ型応答」、特に相手への感謝を表す応答は、現在、日中の若者にとって不可欠な応答ストラテジーとなっており、日中の伝統的な「謙遜」を表す言語行動は、今後ますます減少の方向に向かうものと予想される。

参考文献：

井出祥子（2006）『わきまへの語用論』大修館書店。

西香織（2006）「感謝に対する応答の指導について——日本語教育の視点から——」『人文』（鹿児島県立短期大学人文学会論集）第30号、pp.25-41。

大野敬代（2005）『『ほめ』の意図と目上への応答について—シナリオ談話における待遇コミュニケーションとしての調査から—』『社会言語科学』7（2）、88-96。

大野敬代（2006）「謙遜表現の使用条件について」『学術研究（国語・国文学編）』（早稲田大学教育学部）54、27-35。

寺尾留美（1996）「ほめ言葉への返答スタイル」『日本語学』5、81-88。

陈建民（1991）〈汉语的道谢用语〉《语文建设》12、30-31。

邓炎昌、刘润清（1989）《语言与文化—英汉语言文化对比》北京：外语教学与研究出版社。

鲁宝元（2000）《汉语与中国文化（汉日对照本）》神里常雄译，北京：华语教学出版社。

史耕山（2008）《汉语称赞语中的性别研究》北京：科学出版社。

Chen, R. (1993) Responding to compliments: A Contrastive study of politeness strategy between American English and Chinese speakers. *Journal of Pragmatics*, 20, 49-75.

Herbert, Robert K. (1986) Say “Thank you” - or something, *American Speech*, 61, 76-88.

Holmes, Janet. (1986) Compliments and Compliment responses in New Zealand English, *Anthropological Linguistics*, 28, 485-508.

Pomerantz, Anita (1978) Compliment responses : notes on the co-operation of multiple constraints, In Jim Schenkein (ed), *Studies in the Organization of Conversational Interaction*, New York : Academic Press.。